

1 心不全とは?

心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。心臓は血液を送るポンプとしての役割を担っていますが、全身の臓器が必要とする血液を十分送り出せなくなった状態をいいます。

心臓の働きが悪くなる原因としては、心臓の筋肉自体が直接的に障害を受ける心筋梗塞や心筋症、心臓の筋肉に長期間にわたって負荷がかかる高血圧や弁膜症、そのほか不整脈や心臓以外の全身の病気など、多くの病気が考えられます。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査…6

「心不全」

日本臨床検査専門医会
赤坂 和美



2 どんな検査でわかるの?

動いたときの息切れや呼吸困難、むくみや手足の冷感などの症状がある場合に、心不全の原因となる病気などがいないか問診し、聴診などの身体診察を行います。さらに以下のような検査を行い、総合的に判断します。

a) 胸部X線検査

心臓が大きくなっていないか、肺のまわりに水が溜まっていないか、心臓の手前で血流がうっ滞することによる肺のうっ血などがいないかを確認します。



b) 心電図検査

心不全特有の所見は認めませんが、波形の変化や不整脈など心不全の原因となる病気がないか判断します。

c) 心臓超音波検査（心エコー図検査）

心臓の大きさや壁の厚さなどの心臓の構造のほか、心臓の動きや血液の流れもわかる検査で、弁膜症の有無や心臓のポンプ機能などを評価できます。心不全の診断のみならず、心不全の原因が何かを判断するために重要な検査です。

d) 血液検査

脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）というホルモンは、心臓に負担がかかると分泌される量が増えます。N末端プロBNP（NTproBNP）も同様に分泌され、これらは血液検査で簡単にわかるため、心不全を疑うときに行う検査です。しかしながら、この数値のみで心不全を判断できるわけではありません。腎機能や高齢、肥満などが検査結果に影響を与えるためです。また、心不全の原因はわからないため、他の検査と組み合わせて行う必要があります。

参考文献 日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン. 2021年 JCS/JHFS ガイドライン フォーカスアップデート版 急性・慢性心不全診療 (2021年7月閲覧) https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Tsutsui.pdf